

外国人の親子を支援するボランティアのための研修会

関西生命線

〒550-0006 大阪市西区江之子島 1-5-12-501

助成事業の概要

<目的>

子育ては非常に難しいことですが、どこの国の親でも同じです。特に、外国人の親として異国での子育ては、さらに大変です。なぜならば、日本での生活は、言葉・文化・習慣の違いによる悩みも多い上に、学校や教育における制度や地域での付き合い方を含む価値観も異なる中で、子育ては決して容易なものではありません。そこで外国人の親が少しでも日本の地域社会で安心して子育てができるような環境を支援するために、夏休みを利用した2泊3日のボランティア研修会を行うことが目的であります。

<時期>

学習者と講師と一緒に寝泊りし、ディスカッションしたりすることの可能な時期を考え、夏休みを利用し、2泊3日で集中できるように7月30日(月)～8月1日(水)としました。

また、会場の兵庫県のグリーンピア三木は、学習者が大自然の中で、のびのびとでき、日々のストレスを開放できるため、一生懸命勉強しやすい環境にあり、研修の場として理想的だと考えております。

<内容>

7月30日(月)

- ・講義「日本で生活・適応するためのノウハウ」
- ・講義「親子の絆をいかにつなぐか」
- ・講義「メンタルケアにより自殺は防げる」

7月31日(火)

- ・講義「支援するための技能を高めるにはⅠ」

- ・ワークショップ

- ・講義「支援するための技能を高めるにはⅡ」

8月1日(水)

- ・全体討論
- ・ワークショップの発表
- ・まとめ

事業の成果

<目的達成度>

日本人と外国人とを問わず、外国人の親子を支援する大切さの意識を高めることができ、目的を達成できました。

<得られた成果>

この研修会は、講師を招いた講義の下で、夏休みを利用した2泊3日の濃いプログラムの中で研修した理論は、その後の電話相談や月1回の子育ての現場にて実践的な相乗効果が図れます。また、月1回の勉強・交流会を通じて支援するボランティアと参加者は、各メンバーが援助過程の中で、子供のしつけや教育・親子の関係ほか虐待や不登校など個々の課題について解決の糸口や方法を見つけ出し、異国における地域社会での学習成果を展開できると信じております。

日本人にとっても子育ては大変で、さらに外国人の親にとっては、より困難な環境におかれている現状であることを社会的に認識して頂いた上で、相互理解と協力によって、多文化共生社会を実現できる役割を果たすことにより成果を得ることが出来ます。

＜課題＞

支援するボランティアへの研修は、単に集中した 2 泊 3 日だけでできるのではなく、日々ボランティア達は人間理解への勉強が不可欠であり、さまざまな人間諸相や生き方に共感できる能力などは、やはりケーススタディを通じて行うことが一番身近なやり方と思いますが、今後の課題であります。

＜参加者の感想等＞

◆「異文化環境における子育てについて考える」
チャンスを与えられた。

ストレスを抱えながら、異文化に適応していくためには、子育てをする親に心構えが必要です。「郷に入れば郷に従え」という姿勢での柔軟な対処、あせらずにいい意味でのあきらめを持つこと、心を開き積極的にコミュニケーションをとろうとすること、ソーシャル・サポート・ネットワークの構築と活用等が勉強になりました。

在日外国人への支援としては、メンタル面での支援が最も重要で、異文化での人間関係形成をめざしたソーシャルスキルを高めることで、また、在日外国人のマンパワーの活用という 3 点を課題として提示もされました。

◆共感したことは、外国人の親が生活、文化、言語、習慣等をすべて一から学ばなければならないことです。したがって、これらのことに適応するためには、学ぶことが必要です。

◆二つの言語で異なる世界の認識を学び、異なる世界観をたくさん知りました。異文化を理解するために、春田医師は、日本で異文化を受け入れるならば、幼児期がいいとおっしゃいました。また、日本は、他の国の民族性と大きな違いがある。ということを再認識させられたことが、勉強になりました。

◆日本で子育てをする外国人の苦勞を知り、その問題をいろいろな方向から考えて討論したことは

私にとって良い経験になりました。

◆関西生命線の活発な活動はずっと聞いていました。仕事が忙しく参加できなかったのですが、友達から夏休みに外国人の子供の教育について「ボランティアの 2 泊 3 日の研修」もあると聞き、関心を持ち参加しました。

濃いプログラムの中で精神科医まで、招いて指導をして頂きました。それぞれグループにわかれ討論し、交流をすることができました。私たちにとり大変有意義なものでした。

成果の広報、公表

22 年間当団体は、活動の内容を報告するために「関西生命線ニュース」を制作し、年に 2 回発行（A4 サイズで 24 ページ程度）して参りました。時には、合併号として年 1 回の発行とすることもありました。開設後 22 年来、ずっとこのペースで実施してきました。

したがって、このたび（平成 24 年）貴日本福祉弘済会に助成頂いた事業「外国人の親子を支援するボランティアのための研修会」についての成果を当団体が発行している「関西生命線ニュース」に掲載することにより広報として好評されます。このニュースは 1,000 部作成し、関係するところへ配布することと致します。配布先の内訳は下記の通りです。

- ・マスコミ関係者（新聞社、テレビ局関係）：25 部
- ・大阪府、大阪市関係者（国際交流関係）：60 部
- ・当団体の会員、ボランティア：350 部
- ・近畿の各大学（1 箇所 5 部 ×35 大学）：175 部

今後の展開

外国人の親の子育てを支援するボランティアが、いかに大切な役割を担うかということが、この事業活動の成果として表れています。一方、課題としてこの研修を継続できるか否かを踏まえ、今後の展開として考えていることが、先ず、実践面で、当団体は主に電話相談を中心に活動していますが、その中で子育ての電話相談の対応の仕方や面接（親や親子や夫婦等）等は、ボランティアに実践的場面を与えます。他に当団体は月 1 回外国人の親の子育てを支援するためのサークルを行っていますが、グループワークを通じての支援を実践する場面にも参加できます。

一方で支援ボランティアを養成する研修も継続して行えるよう考えております。時間や費用を考慮し、年 4 回程度のケーススタディを行い、ボランティア達の支援・スキル向上だけでなく、援助者の資質も向上できるものと考えております。